



公益社団法人 秋田県理学療法士会
Akita Physical Therapy Association NEWS

Partner

Vol.212
2024 Spring

広がれ 秋田県理学療法士会員、そして地域との輪



第28回秋田学会開催直前インタビュー
学術推進・応援企画 教えて! プレゼンのコツ!

表彰報告

研修会・セミナー案内

会長のあゆみ/思い邪無し

発行:公益社団法人 秋田県理学療法士会
会長:菅原 慶勇 責任編集:佐々木杏奈 印刷:(株)秋田情報プリント
事務局:〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40
TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org
ホームページ <https://www.ptakita.org>

2024
6.29 土

学会長

ジョーンズ 佳子氏
秋田リハビリテーション学院

実行委員長

福原 隆志氏
秋田リハビリテーション学院

第28回秋田理学療法士学会開催

地域づくりは人づくり

開催が迫った第28回秋田理学療法士学会に向け、学会長を務める秋田リハビリテーション学院のジョーンズ 佳子氏に学会について伺いました。

ジョーンズ 今回の学会のテーマは、「地域づくりは人づくり」です。地域をテーマとした秋田県学会は2019年以来で、5年ぶりですね。その時、またその前からと比較して、地域での理学療法士の活動が変わっていると思います。今回の学会では、地域における理学療法士の活動について、1日かけて学ぶことができるように企画させていただきました。

—— 本学会のアピールポイントを教えてください。

ジョーンズ まず昨年度の学会と同様に、遠方の会員の方も参加しやすいように、ハイブリッド開催としたことです。最新の動向や話題を把握できるのは、オンラインも対面も同様ですね。

しかし、ハイブリッドとは言っても、対面で学会に参加することのメリットも、皆さんに感じていただきたいと思い、対面のメリットを考えてみました。まずは、会場にいることでその場所の雰囲気や空気を直に感じられることだと思います。それから、日常の職場だとか、自分の部屋から離れて、環境が変わることでリフレッシュできると思いませんか。また、他の参加者の方とそこで実際にコミュニケーションが取れ、フィードバックを貰えること、意見交換ができること、ネットワークを構築できることが対面の良さだと感じます。

どうしても県南、県北の会員の皆様は、オンライン参加の方が楽だと思います。しかし、それぞれの地域で地域特性に合わせて、面白いことをやっていると思うので、ぜひ現地に来てお話ししていただきたいですね。全県から集まることで小さい括りの中だけじゃなくて、全体で考える機会になればと思っています。

特別講演

1 「理学療法士はどのように 地域づくりに関わるか？」

東海大学 建築都市学部建築学科 特任准教授
後藤 純 氏

2 「秋田県の今とこれから 理学療法士に期待すること」

秋田県 健康福祉部 長寿社会課
伊藤 拓 氏

指定演題

1 「地域における理学療法士の活動報告」

中央 ▶ 中通リハビリテーション病院 鈴木 貴博
北部 ▶ 介護老人保健施設いこいの里 高橋 佑馬
南部 ▶ 大曲中通病院 鈴木 和也

2 「災害と理学療法」

中通リハビリテーション病院 成田 研
秋田大学医学部附属病院 畠山 和利
秋田リハビリテーション学院 木元 裕介
秋田大学医学部附属病院 菊池 耀

教育講演

「Short Presentation Stage -臨床で役立つ!特(得)ダネセミナー-」

専門領域研究班



ジョーンズ 2つ目のアピールポイントとしては特別講演です。今回は理学療法士以外のお二方に講師をお願いしています。理学療法士とは異なった視点で、地域での理学療法士、リハビリ専門職の役割をお話いただく予定です。

まず特別講演1では東海大学の後藤純氏をお呼びしました。様々な県・市町村で地域づくりのアドバイザーとして活躍されている先生です。リハビリ専門職が、地域住民の方にどのような役割を持って接するべきか等の考え方を、わかりやすく伝えてくれると思います、お願いしました。

特別講演2では秋田県健康福祉部長寿福祉課より伊藤拓氏をお呼びしました。県のアドバイザー養成講習に携わっている方です。県全体としてどう考えているか、秋田県の現状把握、秋田県が向かう方向性を行政の視点よりお話しいただきます。

それぞれの職種が思う地域作りがあり、様々な人、専門家たちが関わって地域づくりとして形になっていく。人がどうやって生活していくかというような所まで、想像力・視野を広げてくれるお話を聴講いただけるとと思います。

さらに指定演題を2つ準備しています。指定演題1では、北部・中央・南部の各ブロックから、各地域での特色ある活動について話していただきます。各ブロックに実際に見に行ったり、直接話を聞いたりする機会は少ないと思うので、本学会で少しでもその一端を担えたらと思います。

指定演題2は「災害と理学療法」と題しました。災害医療は、地域ですごく重要な問題と感じています。日本国内、いつどこで災害が起こるかもわからない時代だし、有事の際にどういう風に動けばいいのか、何を求められているかを知れたらと思います。自分もやってみたいという関心を持ってもらう機会になればいいなと思っています。

—— 能登半島地震も関連してでしょうか？

ジョーンズ まさにそうです。能登半島地震の関連では、支援に行った方々から発表していただきます。道路が遮断され、交通機関や医療、介護サービスも限られた中での活動の実態を聴講いただけるとと思います。

ジョーンズ また、後期研修に該当する症例報告セッションも昨年同様に行います。卒後1、2年で到達すべきレベルという意味でも、学生の皆様にもいい刺激になると思うので、ぜひ見ていただきたいです。

すっかり恒例となった教育講演のトクダネセミナーも企画していますので、楽しみにしててください。

—— 改めて、どんな意味を込めて、どうしてこのテーマにしたか、テーマへの思いを教えてくださいませんか。

ジョーンズ 地域包括ケアシステムの完成年度が2025年となっており、目前となっているところで、今一度考えないといけないのかなと思っていました。もっと地域に関わっていくようにと言われている中で、うまくできているのかというのはずっと考えていたので、テーマにできればと思いました。

—— 地域作り=人作りという言葉自体に対しては？

ジョーンズ テーマを考えるにあたって、いろいろ案を出し、それぞれ10個以上考えました。地域って言ったら何を思い浮かべるか。そうすると市だとか町だとか、エリア、範囲というイメージが強いのではないかと思います。でも、その中では人がいないと成り立たないし、みんなが生きていくのに快適さを求めるには、やはり人が重要と感じました。しかし、携わるのは理学療法士だけでなくみんなだと、様々な専門職、それから一般の人も含めてだと思いました。

だから、地域とはそこに住んでいる人、人の集合体が作っているコミュニティだと思います。そこにいる人たちが変わっていくと、地域というものの自体の価値観が変わってくる。1人ひとりの働きが集まって、地域・コミュニティが変わってほしいなという思いを込め、この言葉がテーマとなりました。区切りとして2025年はあるかもしれないけど、ずっと続けていかなければいけないことだと感じています。

「地域づくり」は正解がなく、難しいと感じられるかもしれませんが。そういう見方もあるのねと気づくだけでも良いと思います。参加者それぞれが地域とは何か、街づくりとは何か、イメージを作る機会になればと思います。そして、一部の理学療法士だけが関係する話ではなく、あらゆる領域で働く理学療法士にとって、自分たちもコミュニティを形作る輪の一部で、自分たちの働き、やっていることも地域づくりの一部、地域住民の生活を支える一端だと思っていただける学会になると嬉しいです。

本学会からまた県士会員のネットワークが強まることを期待し、幅広くいろんな年代の方に参加してほしいと心より願っております。たくさんのご参加を、お待ちしております。

—— 取材をする中でも視野が広がる経験となりました。学会を通して皆さんにも体験していただければと思います。

会場 ▶ 秋田大学大学院医学系研究棟総6講義室
(総5講義室にて症例報告セッション)
+ Web (オンライン会議システムZoom)

参加費 ▶ 県士会員 2,000円 / 非会員 4,000円 / 学生 無料

会員の場合 参加登録に加え各セミナーの聴講により、各コードのポイントも付与されます!!

- 1 学会の参加登録(区分1-7 地域リハビリテーション) 7ポイント (7点)
- 2 指定演題1(区分5-60 社会参加)
- 3 指定演題2(区分2-31 災害時の理学療法)
- 4 特別講演1(区分13-154 地域保健)
- 5 特別講演2(区分14-165 地域医療と理学療法)
- 6 教育講演(区分1-2 リハビリテーション医学・医療)

※ポイント詳細に関しましては、JPTAアプリよりご確認ください





学術推進・応援企画

教えて！ プレゼン のコツ！

演題が無事採択されたけど、学会本番に向けて、スライドや発表をどうしたらいいか自信がない…

そんなあなたのために経験豊富な先輩理学療法士からの、熱のこもった本気の指導を紙面講義でお届けします！

今回は学会の大一番、プレゼンテーションのコツを 秋田県立循環器・脳脊髄センターの 加賀屋勇氣 氏からご指導頂きます。



今回の講師

加賀屋 勇氣（秋田県立循環器・脳脊髄センター）

- ・資格：循環認定理学療法士、心臓リハビリテーション指導士、心不全療養指導士等
- ・座右の銘：アルコールは人間にとって最悪の敵かもしれないが、聖書には敵を愛せと書かれている。



学術推進・応援企画

1. 教えて！抄録作成のコツ！
2. 教えて！プレゼンのコツ！

上手いプレゼン、プレゼンの本質とは？

ときに「この人は圧倒的だな」と感じるプレゼンに出会うことがあります。皆さんも気づけば時間があっという間に過ぎていたという経験はないでしょうか。私がこれまでに衝撃を受けたプレゼンターと言えば、秋田大学病院の大倉和貴先生（初めて他人のプレゼンで嫉妬しました）、順天堂大学の高橋哲也教授（技術盗みまくりました）、そして慶應義塾大学の香坂 俊医師（私にとってはアイドルに等しい）です。いずれも私が評するのは失礼な方々ですが、共通しているのは、**論理展開に伸びがなく一貫したストーリーがあること**。そして**聴衆を置き去りにしないこと**です。この2つこそが上手いプレゼンをする上で大切な要素だと思います。プレゼンテーションの本質は、まさしく“present”です。家族や友人に贈り物をするとき「何を渡したら喜んでくれるだろう」と考えるように「聞き手の欲する情報は何か」を意識し、独りよがりな発表にしないことでプレゼンテーションのクオリティは自然と上がっていくはずですよ。

スライドとプレゼンスキル、どちらが重要か

言うまでもなくどちらも大切です。もっと言えば、内容が伴わないとどうにもなりません。論理展開に伸びがないことが大切と言いましたが、**プレゼン**はあくまで**研究内容を分かりやすく伝えるための手段**ですから、研究それ自体の方法論や考察に問題がある場合、それを誤魔化すことはできません。予演会で指摘された箇所を修正しようとするあまり、内容が変わってしまった…という話を度々耳にしますが、それは好ましくありませんね。

それはそうと、スライド準備と原稿作成に気を取られ、当日は原稿を目で追いながらしゃべるだけになってしまう人も多いと思います。紙であれPowerPointの機能であれ、原稿を用意するのは悪くはないですが、本番では極力目線を聴衆に向けて話せるよう練習することをオススメします。以前、私の恩師がおっしゃっていたことですが、プレゼンで



まずはとにかくこちらをご覧ください！
スライド作成とプレゼンの基本を網羅できます。
しかも とても分かり易い！
このページを参考にするだけでプレゼンレベル
が爆上がりします！

**プチアドバイス：オンラインのみで発表するときにはフォントサイズはちょっと小さめ（18-24）でもOKです！
逆に文字が大きすぎると画面上ではちょっと違和感があるかも...**

は聴衆の表情をよく見て話す。うなづきながら聞いてくれている人を見つけたら、その人に向けて話すようにしている。全体的に、疑問が表情に出いたら、少し丁寧に説明を加えるようにするといい。そういう風に教わりました。限られた時間で内容を調整するのは玄人の成せる業ですが、少なくとも聴衆を意識したプレゼンは説得力が違います。原稿はお守りぐらいに考えましょう。

音量についても注意したいところです。大きな会場ではマイク音量を調整してくれる場合もありますが、どの程度の声で話すべきかこちらも意識しましょう。ミュージカル俳優の山崎育三郎さんが「一番後ろの席まで歌声が届くように意識している」という話をしていて、私もそれ以来、プレゼンの最初が一番奥の席に視線を持っていくようにしています。自然と視線も上がりますし胸を張ることもなります。大声を出すわけではないですが、フロアーに声が通り易くなります。

音量と言えはマイクの扱いも重要です。フロアーを見回すためには、マイクを自分で持つのが有効です。安定して声を届けるためにも個人的には左手にマイク、右手でパソコン操作がベストです（最近はポインターを使うことが少なくなったので楽になりました）。卓上のマイクスタンドにマイクをはめたまま使用してもいいですが、声がしっかりマイクに入るように位置や高さを調整しましょう。

■ 知っておくと安心 会場のこと・発表の流れ

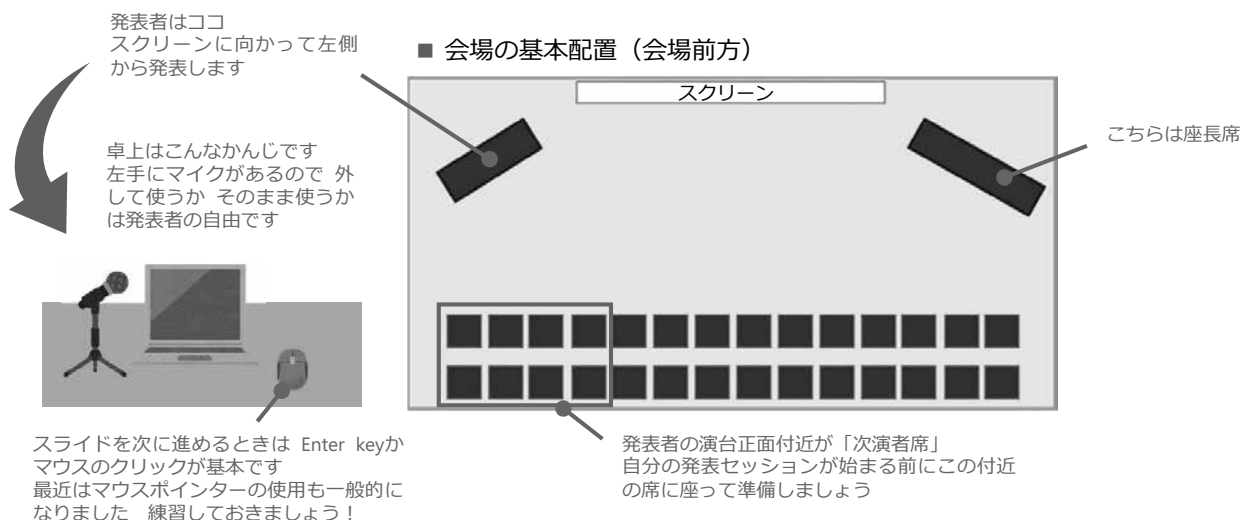
口述発表の会場は下の図のようになっています。自分の順番になったら速やかに次演者席から演台に

進みましょう（私は前の発表者の質疑中に水分を取っておきます）。通常スタッフがスライドの1枚目を表示した状態にしてくれています。座長が所属・氏名・演台名を述べてくれますので、それに続いてプレゼンを始めましょう。「よろしくお願います」など一言添えるといいですね。演台名を繰り返す人もいますが、すでに座長が述べたあとなので、2枚目のスライドから始めても構いません。発表を終えたあとは質疑応答の時間です。緊張しますが、何を問われているかをしっかり捉え、できるだけ丁寧かつ端的に質問に回答しましょう。緊張していると、質問に対する回答ができていないことがよくあるので注意です。質問内容を把握できなかったときには、素直に「もう一度お願いします」と聞き直しましょう。明確に回答できない質問には「あくまで私見ですが、」と頭につけると良いですし、「今回はそこまで検討できませんでした」と言い切るのも良いでしょう。座長から終了の合図が出たら、速やかに演台から降りましょう。

■ スライド作成の事前知識

1. 全体の構成

ではいよいよスライド作成の話をしていきましょう。まず全体の構成です。基本的な流れは、抄録の流れと変わりません。「タイトル」「COI」「はじめに（序論／背景）」「目的」「方法」「結果」「考察」「結論／結語」というのが一般的です。症例報告では、「タイトル」「COI」「はじめに（背景）」「症例提示」「経過」「考察」「結語」とするとまとめやすいです。



ブチアドバイス：当日にスライドを提出する時はUSBだけでなく自分のメールやドライブにデータを送っておくともしものときも安心！
移動でUSBが壊れることもあるので出張用のUSBは余計なデータをいれずにスライドだけ持ち運ぶのが吉！

2. スライド作成の基礎知識

学会のホームページで、スライド作成のルールを確認しましょう。スライドのサイズ（最近では16:9が一般的）や使用できるフォント、発表時間などが記載されています。

フォント選択や背景色などは、最初に決めておきます。あまり奇をてらわず、見やすいことに重点を置きましょう。要項でフォント指定がありますが、実際には、MicrosoftのPowerPointに標準装備されているフォントであれば使用できます。ただし、あまり個性が強すぎるフォントは悪目立ちするだけなので、「ゴシック体」やその派生である「メイリオ」を使用するのが無難です。

3. 文章での説明は極力避ける

論文をそのまま張り付けたかのような長文スライドを時々目にしますが、文章を目で追ってしまい、喋っている内容に注意が向きません。そもそも長文は読む気がしにくいものです。端的で見やすい表現を心がけましょう（症例報告での現病歴は文章で表示するのが妥当）。

4. 聴衆は誰かを意識する

学会に参加する“層”を意識しましょう。例えば私は心リハを専門にしていますが、心肺運動負荷試験で得られる“OUES”というデータについて話をするとき、心リハの専門家が集まる学会であれば説明は不要ですが、普段心リハに携わらない人が多い場合は「OUES（酸素摂取量に対する換気効率の指標）」とか「OUES（心不全が重症なほど低値）」など説明を追記すると親切ですね。

各スライドの作成ポイント

1. タイトル

演題名とすべての演者およびその所属を記載します。抄録と発表時の演題名や共同演者が異なる場合を目にしますが、所属変更などを除いて抄録と内容を変えることは控えましょう。

2. COI

conflict of interestの略で「利益相反」と訳されます。企業から資金等の提供をがあるかを明示するものです。COIがなくてもその旨を掲載します。COIスライドは学会ホームページで、ダウンロードできるので活用しましょう。

3. はじめに／序論／背景

研究背景を紹介するパートです。扱うテーマの紹介やその問題点を提示することで、「目的」へと自然な流れを作ること意識しましょう。非常に重要なパートではありますが、学会発表では短時間で説明する必要があり、意外と難しいパートです。オススメは、キーワードを2～3取り出し、それらを利用する方法です。例えば私が以前報告した「心不全患者の6分間歩行距離における吸気筋力の臨床的意義」という演題には、「心不全」「6分間歩行距離」「吸気筋力」という3つのキーワードがあります。これを用いて「心不全とはどのような病態か」「6分間歩行距離の概要と心不全との関連」「吸気筋力の概要と心不全との関連」を提示することで、6分間歩行距離と吸気筋力との関連について検討するという研究目的に自然とつながります。ちなみ報告したのは日本循環器学会という医師が主体の学会でしたので、心不全については説明不要でしたが、6分間歩行距離や吸気筋力については少し厚く説明する必要があると判断しました。

4. 目的

研究目的を端的に記載しましょう。また目的とともに、仮説について記載する場合があります。

5. 方法

方法はさらに「研究デザイン」、「対象とその条件・選定／除外基準」、「測定項目・測定方法」、「統計解析」といった項目に細分化されます。しっかりと研究計画を立てていれば事実を記載していくだけの作業ですが、不慣れなうちは記載不足だったり、逆に結果や考察で使用しない余分な情報まで記載してしまったりといったミスがよく起こります。一番重要な「結果」を導くのに情報の不足がないか、最終的にダブルチェックを行いましょう。

5. 結果

研究の成果を提示するパートです。① 対象の臨床背景（性別・年齢・体格や、重症度・採血データ・運動機能等）、② プライマリーアウトカム（メインの結果）、③ セカンダリーアウトカム（副次的な結果）の順番で記載するのが一般的です。1スライドの情報量が多いと（俗にいうビジーなスライド）、何を書いているか読めなかったり、理解できなかったりするるので、ある程度取捨選択

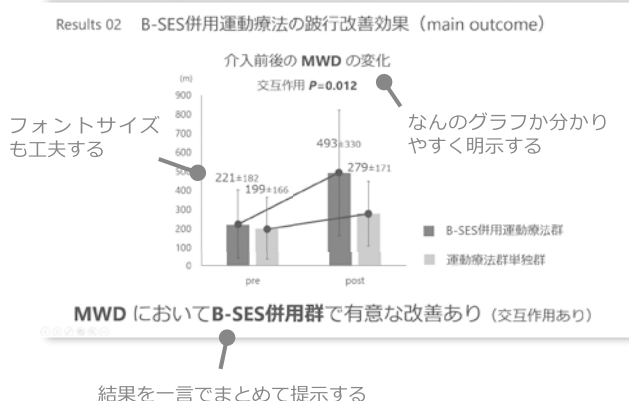
ブチアドバイス：質疑で全く想定していない点を問われたときは「その点は考慮していませんでしたが、よろしければ先生のご意見を教えていただけますか？」と思いきって問い返す方法もあり！（意見を聞いて返答できればなお良し！）

したほうがよいでしょう。例えば対象の臨床背景の図表において、2群間で体格に明らかな差がなければ、身長・体重・BMIのうちBMIのみを記載したり、脚伸展筋力を体重比でのみ記載したりするといった“ダイエット”方法も覚えておきましょう。

②と③で示す研究結果は、最も見て欲しいスライドです。短時間でも理解してもらえ工夫が大切です。1スライドに多数のグラフを並べることは避け、できれば1スライド1グラフ、もし関連性の強いグラフを同時に表示したければ、2～3つまでにとどめたいところです。また、考察に都合の悪い結果を掲載しないのは論外ですが、結論に関与しない結果は省くのも手です。

パッと見て理解しやすいスライドにするには、図表だけでなく、下図のように一言添えるのも有効です。さらにグラフの中で重要な数字はフォントサイズを大きくする、カラーを変えるなどの工夫も検討しましょう。

■ 結果スライドの一例



6. 考察

結果の解釈や先行研究との比較を行うことで、その研究の意義や意味を伝えるパートです。

結果で多くのデータがある場合には、考察の最初に結果の要約を簡条書きで1スライドにまとめておくと、理解してもらいやすいと思います。

考察は、型にはめにくく、他のパートより難しいと個人的には思います（いつも一番最後まで残りがち…）。強いて型を作るとすれば、①**方法の妥当性の説明**、②**先行研究との比較**、③**結果の解釈**、④**研究の限界** となります。①は例えば介入群で用い

た運動の設定がなぜ妥当であるかを説明します。運動学や生理学あるいは先行研究から説明するのが一般的です。この①は後方視的研究などでは不要な場合もあります。②と③が考察のメインです。先行研究と比較して、なぜ今回の研究では異なる結果 or 同様の結果が得られたのか説明しながら、自身のデータの有効性を述べます。最後の④では、自身の研究の弱点を述べます。症例数の不足や、単施設の検討にとどまること、無作為化や盲検化の可否について論じることが多いですが、個人的には短時間のプレゼンで研究の限界に多く時間を割くよりは、研究の強みに焦点を当てて説明すべきかと思います（自分で研究限界を把握していることは重要です）。

7. 結論/結語

結論と結語は似た言葉で、明確な使い分けをしている人は少ないと思いますが、結論は「研究課題に対する最終的な回答」であり、結語は「全体の要約」と言えます。どちらを選んでも良いのですが、その研究単独では十分な一般化が困難と考えているなら結語で締める。一般化を含めて、課題に対する十分な解答を導くことができたと判断するなら結論とするのが適切かもしれません。症例報告では、経験と治療経過に対する考察が述べられるにとどまり、一般化することは困難なので「結語」が望ましいと言えます。いずれにせよこのパートは最初の「目的」に対する答えになっているかを確認し、端的に記載しましょう。結果や考察の内容から飛躍しすぎた内容にはならないように注意が必要です。

■ 最後に ～より良いプレゼンを目指して～

スライドデザインやプレゼンは、少し意識を変えるだけで劇的に変化します。最初に述べたように、論理展開を大切にすることと、自分ならどんなスライドが見やすいか、どんな風にしゃべってもらえと理解しやすいか、を考えながら準備しましょう。

そして、「この人のプレゼンはスゴイ！」という人を見つけたら、その技術を盗むことも上達への近道です。経験豊富な先生方は多くの技術を持っていますので、直接声をかけてみるのも良いと思います。

最後に、発表は何度経験しても緊張するものです。不安を取り除くには繰り返し練習するしかありません。徹底的に準備して満足いくプレゼンをめざしましょう！

[special thanks: 高橋裕介, 大倉和貴, 加藤拓哉]



第52回医療功労賞

東北地方医療功労者表彰式にて佐藤峰吉先生が表彰されました。
お言葉を頂いておりますので、ご紹介いたします。

医療法人久幸会 **佐藤 峰善**



読売新聞社主催「第52回医療功労賞」(全国35名以内)を受賞し、その栄誉に感謝します。仙台での表彰式には会長と副会長が突如列席し、喜びが広がりました。振り返れば、津軽保健生協健生病院から秋田大学病院に移り、理学療法に携わる傍ら、経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激という高度先進医療チームに加わってきました。制御装置だけでなく、周辺機器の開発にまで関わり、私自身にとっては興奮の連続でした。退職後 Biones Functional Electrical Stimulation がようやく保険適応となり、感慨深いものがあります。もちろん、

これまでの約40年間にわたる活動を支えていただいた皆様、受賞候補にご尽力いただいた関係諸氏があってこそこの受賞だと思っております。この場を借りて心から感謝申し上げます。

ウィメンズヘルスに関する勉強会ははじめました

市立秋田総合病院主催 ウィメンズヘルスに関する勉強会
第2弾 骨盤底筋トレーニングのすゝめ



講師 ▶ 市立秋田総合病院 鎌田 菜月氏

日時 ▶ 令和6年5月10日(金) 18:00~19:00

開催方法 ▶ Web開催 参加費 ▶ 無料

申込 ▶ 秋田県理学療法士会 生涯学習班 伊藤 雄平

✉ ak.shougai@gmail.com

以下の内容をご記載の上、お申込みください。

- ①日本理学療法士協会会員番号(非会員の場合は職種)
- ②氏名 ③所属 ④前回資料配布希望する or しない



県士会ホームページ
からもチェック

ウィメンズヘルス理学療法というと、「学んでも活かせる場がない」といったイメージをお持ちになるかもしれません。県内では、まだあまり普及していない領域かもしれませんが、すでに多くのエビデンスが報告されており、都心部では医療機関や地域活動において理学療法士が妊産婦や骨盤底機能障害を抱える女性に介入する例が増えています。

第2回では、骨盤底筋機能の評価や骨盤底筋トレーニングの実践について、実技動画を交えてご紹介させていただく予定です。骨盤底筋は、インナーユニットとして横隔膜・多裂筋・腹横筋との関連が報告されており、男女に関わらず腰痛・股関節痛・姿勢の異常をみる際にも、骨盤底筋機能の評価が原因の鑑別に役立つ可能性があります。第2回からご参加いただいてもわかりやすい基礎的な内容となっておりますので、前回参加できなかった先生もぜひお気軽にご参加ください!当日は、県内でのウィメンズヘルス理学療法法の発展を願って、精一杯お話しさせていただきますので、たくさんの先生方のご参加を心よりお待ちしております!

R5年度
秋田県理学療法士会 研修会

1st

臨床に役立つ脳卒中歩行再建のテクニック(仮)

講師 ▶ 宝塚リハビリテーション病院 研究開発部門長 中谷 知生 氏

日時 ▶ 令和6年7月27日(土)

開催方法 ▶ Web開催

対象・参加費 ▶ 秋田県理学療法士会会員(1,500円)、非会員(3,000円)、学生(無料)

2nd

骨格筋の微小循環障害と理学療法(仮)

講師 ▶ 北里大学医療衛生学部 准教授 堀田 一樹 氏

日時 ▶ 令和6年10月5日(土)

開催方法 ▶ 現地開催

対象・参加費 ▶ 秋田県理学療法士会会員(1,500円)、非会員(3,000円)、学生(無料)

3rd

臨床に多い肩関節疾患に対する理学療法(仮)

講師 ▶ 医療法人さとう整形外科 赤羽根 良和 氏

日時 ▶ 令和6年10月20日(日)

開催方法 ▶ 現地開催

対象・参加費 ▶ 秋田県理学療法士会会員(3,000円)

4th

理学療法士が知っておきたい組織行動論とその使い方(仮)

講師 ▶ 島根大学医学部 リハビリテーション医学講座 療法士長 江草 典政 氏

日時 ▶ 令和7年1月18日(土)

開催方法 ▶ Web開催

対象・参加費 ▶ 秋田県理学療法士会会員(1,500円)、非会員(3,000円)、学生(無料)



お問い合わせ先

秋田大学医学部附属病院リハビリテーション部

高橋 裕介 までご連絡ください

✉ chuokensyu.akita@gmail.com



専門領域研究班 セミナー案内

各領域の研究班では初学者でも参加しやすい内容の研修会を企画しております。

参加費は無料です。日程は多少前後することもあります。

詳細な内容については、随時お知らせ致します。

県士会のホームページにあるカレンダーでもご確認いただけます。

皆様奮ってご参加下さいますよう、お願い申し上げます。

運動器

第1回 ▶ 令和6年7月24日(水)

第2回 ▶ 令和6年12月7日(土)

神経

第1回 ▶ 令和6年8月7日(水)

第2回 ▶ 令和7年1月29日(水)

呼吸

第1回 ▶ 令和6年7月4日(木)

第2回 ▶ 令和6年10月3日(木)

循環器

第1回 ▶ 令和6年8月21日(水)

第2回 ▶ 令和7年1月15日(水)

老年期

第1回 ▶ 令和6年7月10日(水)

第2回 ▶ 令和6年12月10日(火)

スポーツ

第1回 ▶ 令和6年6月21日(金)

第2回 ▶ 令和6年11月15日(金)

選挙管理委員会からのお知らせ

令和6年度秋田県理学療法士会役員選挙が6月に開催されます。告示はホームページに令和6年4月1日から掲載されておりますので、閲覧のほどよろしくお願い致します。



県士会のホームページ

		 <h1 style="margin: 0;">会長のあゆみ</h1> <h2 style="margin: 0;">1～3月会長活動記録</h2> <p style="margin: 0;">Cartoon by MomentCam</p>	
1.6	協会理事会傍聴 (Web)		
1.9	日本JRAT緊急代表者会議 (Web)		
1.10	協会と意見交換 (Web)		
1.10～14	能登半島地震DMAT隊で派遣 (石川県能登町)		
1.16	第52回医療功労賞東北地方表彰 (仙台)		
1.17	第二回秋田県トレーナー派遣委員会 (Web)		
1.17	当会主催循環器グループベーシックセミナー (Web)		
1.23	日本JRAT代表者会議 (Web)	3.6	秋田JRAT会議 (Web)
1.25	当会主催理学療法士のワークライフバランス研修会 (Web)	3.7	令和五年度東北がん評議会 (Web)
1.26	秋田産業保健総合支援センター腰痛予防対策セミナー (秋田市)	3.8	第六回秋田県医療審議会医療計画部会 (秋田市)
1.29	潟上市障害者総合支援法審査会 (潟上市)	3.9～10	秋田呼吸リハビリテーション懇話会ベーシックコース研修会 (Web)
1.29	協会ブロック協議会代表者会議 (Web)	3.11	秋田リハビリテーション学院令和五年度卒業証書授与式 (秋田市)
2.9	当会ウイメンズヘルス理学療法研修会 (Web)	3.13	秋田県リハビリテーション専門職協議会会議 (Web)
2.17	令和五年度第一回東北広域次世代がんプロ養成プラン 秋田大学運営諮問委員会 (秋田市)	3.14	叙勲受章祝賀会実行委員会 (Web)
2.19	祝賀会準備委員会 (秋田市)	3.15	第二回スポーツ医・科学委員会 (秋田市)
2.22	他団体代表者と懇談 (潟上市)	3.19	潟上市社会福祉協議会評議員会 (潟上市)
2.23	山形県理学療法士会創立五十周年記念事業 (山形市)	3.22	秋田大学卒業式 (秋田市)
2.28	第六回理事会 (Web)	3.25	令和五年第二回秋田県医療審議会医療人材部会 (秋田市)
3.2	潟上市スポーツ表彰 (潟上市)	3.25	潟上市障害者総合支援法審査会 (潟上市)
3.2	三役会議 (秋田市)	3.28	叙勲受章祝賀会実行委員会 (Web)
		3.29	日本理学療法士協会東北ブロック協議会会長会議 (Web)

よこしま
思い邪無し 一会長の想いをつづる



近年、日本理学療法士協会における退会者と休会者が増加傾向にある。当県も例外ではなく、同様の傾向がみられる。12月～2月半ばまでの間で5名の退会者と9名の休会者があった。退会者の主な理由は、理学療法士以外への転職で、続いて会費負担が大きい、である。休会者では、離職、妊娠や育児、会費負担が同数となっている。4月のトリプル改定ではリハビリテーション専門職の処遇改善がされた。長年の課題を乗り越えた大きな一歩であり、大変喜ばしいことであるが、今回の改定はあくまでも第一歩であり、更なる処遇改善が必要である。これまで抑えられていた分も含めて、今年度を契機に積み上げられていくことを強く期待している。休会の理由には、研修会等に魅力を感じないという意見も散見される。事業局員は、登録理学療法士としてのスキルアップ等支援のため、知恵を絞り、工夫を凝らした多くの研修事業を企画している。参加率は低迷しておらず、二極化が進んでいるのかもしれない。研修会等の参加は、スキルアップのみならず交流や情報交換の場として重要である。Web研修の利点もあるが、対面研修を増やしていきたい。一言余計なことをいえば、意外に自身の可能性に気付いていない会員が多いように思える。付き合ってみると意外な方が、意外な力を発揮する(失礼)。6月には当会の役員改選が行われる。新しい風を吹き込むために、積極的に手挙げして頂きたい。より魅力的でより活発な秋田県理学療法士会のために、会員皆のより一層の参加をお願いしたい。

菅原慶勇

思い邪無し：
「論語」より。人々の詩を詠む心について述べた一節。
嘘偽りのない純粹さの意。

ニュース編集班より

ParTner読者の皆様、いつもお読みいただき、ありがとうございます。広報部の佐々木です。今月号の表紙は秋田内陸線とカタクリの花です。紫色が美しいカタクリの花は「春の妖精」とも呼ばれているそうですよ。

さて、新年度になりましたね。今年度からニュースの表紙を飾る写真を送っていただき、採用された方へQuoカードを贈呈いたします！現在ニュースは季節毎に発刊しております。次号以降の季節に合った植物や風景の写真を下記アドレスまでお送りください。どしどしお待ちしております！（個人で撮影した写真でお願いいたします。写真サイトからの転送はお控えください。使用機材・撮影方法は問いません。）

記事掲載に関してもお気軽にご相談ください。次回ニュースの原稿締め切りは6月21日（金）です。宜しくお願いたします。

連絡・送付先：akita.ptnews@gmail.com

問い合わせ先：秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 佐々木杏奈

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104

学校法人 コア学園

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可校

秋田リハビリテーション学院

平成27年4月開校
秋田県初！
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員



〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-865-0188 FAX 018-864-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します！医療と福祉を確かな技術で

有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●厨房設備機械 ●業務用洗濯機械

〒014-0102 秋田県大仙市四ッ屋字水木田33
〒010-0964 秋田市八橋鯉沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)
FAX 0187-66-2139
☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 池ヶ谷 敏之

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2
Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546
横手営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4
Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313
能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番
Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

帝人ヘルスケア株式会社

東北支店 秋田営業所

秋田県秋田市大町3-4-1 NLP秋田ビル 7階

(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

一般社団法人日本義肢協会加盟・東北101号



株式会社 千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22

TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>